

少数派内閣の常態化？

—2021年カナダ下院議会選挙の結果から—

木 暮 健太郎

1 はじめに

第44回となるカナダ下院議会議員の選挙が2021年9月20日に行われた。前回、2019年10月に行われた選挙から2年が経過したものの、任期を2年ほど残した解散総選挙である¹⁾。さらには、カナダ国内において、新型コロナウイルス感染症拡大の「第4波」が押し寄せていたタイミングでの国政選挙ということもあり、その行方はメディアでも多くの注目を集めた。

開票の結果、おおむね事前の予想通り、トルドー（Justin Trudeau）首相率いる自由党（Liberal Party of Canada）が160議席を獲得して選挙に勝利した。前回の選挙で獲得した157議席から3議席上回ったものの、自由党は下院議会における単独過半数議席（170議席）を獲得することができず、前回2019年の選挙に続いて少数派内閣となった。

任期途中にも関わらず、過半数議席の獲得を目指して、解散総選挙という賭けに出たトルドーの試みは、結果として成功しなかったともいえるだろうし、一方で、かろうじて政権を維持し、任期をさらに延ばすことができたという点では、必ずしも大きな失敗というほどでもないかもしれない。注目す

1) 2007年の改正選挙法によって、カナダにおける総選挙は4年に1度行われることになっており、本来であれば、次回の選挙は2023年10月に実施される予定であった。

べき点は、今回の選挙で自由党は2期連続で少数派内閣となったことである。

2006年から2011年までの保守党政権時代においても、同様に少数派内閣が続く傾向が見られた。かつて宗主国であった英国と同様に、2大政党のどちらか一方が過半数議席を獲得し、単独政権を形成してきたカナダでは、もはや自由党ないし保守党という2大政党のいずれかが単独過半数を得て内閣を形成することが困難なのであろうか。そこで本稿では、2021年に行われた選挙結果を概観しつつ、カナダにおける少数派政権の背景についても論じていきたい。

2 2021年カナダ総選挙の概観

ここではまず、選挙前の政党支持率の推移、全体の選挙結果はもちろん、カナダでは選挙結果を考察する上で不可欠な要素となる地域ごとの獲得議席数についても考察したい。さらには、コロナ禍での選挙ということもあり、過去の投票率との比較といった点から、2021年の選挙について概観していきたい。

2.1 政党支持率の推移

2015年の選挙で首相となった自由党のトルドー首相が、任期途中で解散総選挙に打って出たのは、事前の政党支持率で自由党が野党第1党の保守党(Conservative Party of Canada)をリードしていたことも大きかった。図1は2021年8月初旬から9月20日の投票日前日までの政党支持率の推移を表している²⁾。注目すべきは、選挙から約1か月前の8月13日の時点で、自由党の支持率は35.8%、一方で保守党の支持率が28.7%となっており、その差は7.1ポイントであったことである。8月から投票日前日までの政党支持率に

2) CBC Poll Tracerのデータに基づく。

<<https://newsinteractives.cbc.ca/elections/poll-tracker/canada/>>

少数派内閣の常態化？

において、自由党と保守党の開きが最大となったことから、このタイミングで選挙に踏み切れば、自由党にとって選挙戦は有利となる可能性が高かった。実際、トルドー首相が解散総選挙を表明したのは、この日から2日後の8月15日のことである³⁾。政党支持率に現れた自由党への好意的な世論が、トルドー首相を選挙に踏み切らせた背景にあったといえるだろう。

しかしながら、そうした思惑とは異なり、トルドーが解散を表明して以降、自由党の支持率は少しずつ低迷し始める。8月13日で7ポイントあった自由党と保守党の支持率は接近し始め、8月27日には、その差はわずか0.6ポイントとなる。そして翌日の8月28日には、僅差ではあるが、ついに自由党と保守党の支持率は逆転したのである（自由党32.2%、保守党32.5%）。その後、9月に入っても支持率の逆転傾向は継続し、9月3日には自由党31.0%、保守党33.8%となり、この時点で保守党が自由党に対して3ポイント上回っていた。

解散を表明して以降、自由党の支持率が伸び悩んだ背景には、新型コロナウイルス感染拡大の第4波のなかで選挙を行うことに対して、多くの有権者からの支持を得ることができなかったことがある。トルドーが解散を表明した8月16日には、新型コロナウイルス新規感染者の数は3,990人であったが、その後、緩やかに上昇し始め、選挙も近づいた9月7日には、この期間で最大の8,934人となった⁴⁾。8月16日と比べて、約1.4倍の増加である。

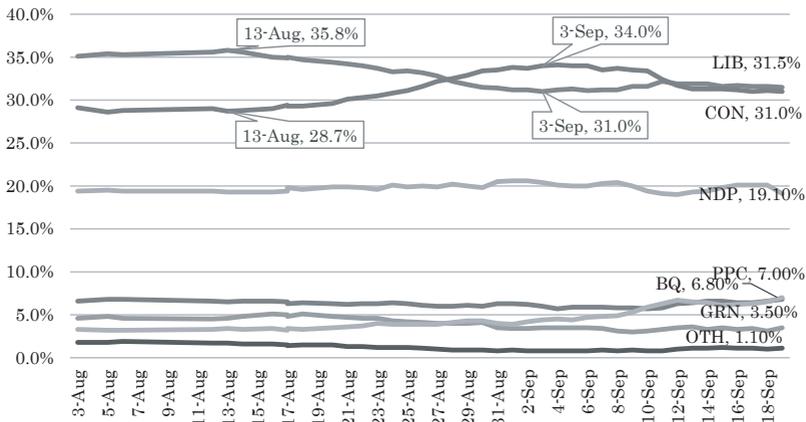
政党支持率でライバルの保守党を上回っていたことと同時に、解散表明より1か月前の7月の段階では、感染者数もかなり低い水準で推移してきたことも、トルドーがコロナ禍での選挙に踏み切る要因の一つであっただろう。しかしながら、その後、8月中旬から感染者が増加傾向となったことは、ト

3) トルドーは8月15日、カナダのサイモン (Mary Simon) 総督に議会の解散を要請し、認められた。なお、カナダ総督は、国家元首であるエリザベス女王の代理としてカナダにおける国家元首としての職務を担っている。

4) オックスフォード大学が運営する Our World in Data が提供するデータに基づく。
<https://ourworldindata.org/covid-vaccinations?country=OWID_WRL>

ルドー率いる自由党にとって、選挙戦を戦う上で不利な条件へと結びついていった。自由党と保守党との支持率が逆転したのも9月に入ってからであり、この点において、与党における政党支持率の低下と新型コロナウイルスの新規感染者数の増加は無関係ではないだろう。

図1 各党の支持率の推移



出典：CBCのPoll Trackerのデータより筆者作成。

< <https://newsinteractives.cbc.ca/elections/poll-tracker/canada/> >

LIB：自由党 CON：保守党 NDP：新民主党 BQ：ケベック連合 PPC：カナダ人民党
GRN：緑の党 OTH：その他

2.2 選挙結果

次に、選挙結果について見ていこう。カナダ下院の選挙はすべての選挙区が小選挙区制で行われており、下院の議席総数は338、過半数は170である。表1は、2021年の選挙における各政党の獲得議席、得票数と得票率、および議席率を表している。

前述の通り、与党であった自由党は前回から3議席を上乗せしたが、過半数の170議席には及ばず、少数派内閣を余儀なくされた。一方、今回の選挙でも政権交代を目指した野党第1党の保守党は、前回から2議席減の119議

少数派内閣の常態化？

席となった。自由党との議席差は51となっているが、興味深いことに、全体の得票率では保守党が自由党を上回っている（自由党32.6%、保守党33.7%）。これはすなわち、小選挙区制下における「死票」の多さを示すものである⁵⁾。小選挙区制では、議席獲得に結びつかない死票が多く、得票率と比べて議席数が少ない場合が起こり得る。そのため、議席率でみると、自由党が47.3%であるのに対し、保守党は35.2%と大きな差が開いているのである。

カナダで歴史的に第3党の地位を維持してきた新民主党（New Democratic Party: NDP）について見ると、前回から1議席増の25議席であった。2015年の選挙ではケベック州で強い支持を集めて102議席を獲得し、結党以来、初めて野党第1党となった新民主党であるが、その後は勢力を拡大することができずにおり、今回の結果でも保守党、ケベック連合に次ぐ「野党第3党」というポジションにとどまっている。

表1 2021年カナダ選挙の結果

政党	議席数	得票数	得票率	議席率
自由党	160 (+3)	5,556,835	32.6%	47.3%
保守党	119 (-2)	5,747,635	33.7%	35.2%
ケベック連合	32 (0)	3,035,715	17.8%	7.4%
NDP	25 (+1)	1,301,496	7.6%	9.5%
緑の党	2 (-1)	398,746	2.3%	0.6%
人民党	0 (0)	844,076	5.0%	0.0%
その他	0 (-1)	1,564,299	0.9%	0.0%
合計	338	18,448,802	100.0%	100.0%

出典：Elections Canadaより筆者作成。議席数のカッコ内は前回選挙との増減を表している。

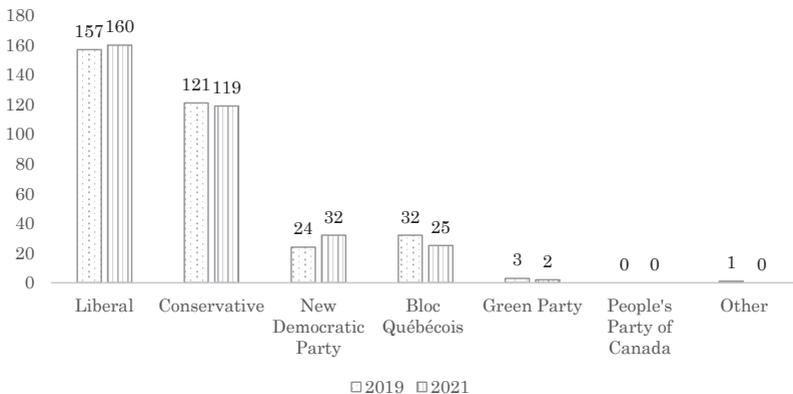
5) 前回の2019年の選挙においても、保守党は自由党に議席数では敗北しているが、得票率において、わずかではあるが自由党よりも多い（自由党33.1%、保守党34.3%）。

カナダの下院議会選挙で極めて特徴的なのは、ケベック連合（Bloc Québécois）の存在であろう。ケベック連合は下院議会に議席を持ちながらも、選挙での立候補者はすべてケベック州に限定されるという、地域主義的な政党である。すなわち、ケベック連合の主な目的は、カナダからの主権独立にあり、フランス語を公用語とするケベック州の独自性を維持するために存在する独特な政党なのである。

結党後、最初の選挙であった1993年の総選挙でいきなり54議席を獲得し、野党第1党となったケベック連合は、2011年の選挙で4議席という壊滅的な敗北を喫しながらも、その後もカナダ連邦政治で一定の存在感を発揮してきた。今回の選挙でもまた、野党第1党の保守党に次ぐ32議席を獲得しており、ケベック州における主権独立に関するムーブメントに大きな変化が起きない限りは、今後もケベック州の利益を反映する政党として存在し続ける可能性は高い。

次に、図2は、前回の2019年選挙と今回の2021年選挙における獲得議席の変化を表している。この図からも明らかなように、改選前と後で、いずれの政党にも大きな変化が見られない。メディアにおいても、政権交代を引き

図2 2019年の選挙と2021年の選挙における各政党の獲得議席の比較



出典：Elections Canadaより筆者作成。

少数派内閣の常態化？

起こすような大きなインパクトをもたらす可能性は低く、前回選挙と同様の結果となるという予測がなされていたが、まさにその通りの結果となったといえるだろう。ある意味では、与党自由党に対する国民からの信任が与えられたと考えられなくもないが、トルドーが期待したような過半数の170議席には届かなかったという点では、必ずしも多くの国民からの強い支持を得たという訳ではない。

2.3 地域ごとの獲得議席

さて、カナダでは各政党の支持基盤が地域や州ごとにかかなりの程度、異なっている点の特徴である。表2は、2021年の選挙における地域ごとの獲得議席を表している。カナダは大まかに3つの地域に分けられるが、カナダ東部に位置するのが大西洋岸諸州（Atlantic Canada）と呼ばれるニューファンドランド・ラブラドール、プリンス・エドワード・アイランド、ノヴァ・スコシア、ニュー・ブランズウィックの4州である。

次に、選挙結果に大きな影響を与えるのが、大票田である中央カナダ（オンタリオ州とケベック州）である。下院議席は、基本的には州の人口数に応じて配分されるため、人口の多いオンタリオ州とケベック州の配分は大きく、両州に与えられた議席数はそれぞれ121議席、78議席で併せると199となる。下院の議席総数が338であるため、中央カナダの議席数だけで全体の6割近くを占めることになる。そのため、過去の選挙においても、この2つの州でどれだけ多くの議席を獲得できるかが、政権獲得の鍵を握ってきた。

最後に、カナダにおける西部地域が、マニトバ、サスカチュワン、アルバータ、ブリティッシュ・コロンビアの4州である。この地域は、伝統的に保守派の地盤であり、かつての進歩保守党（Progressive Conservative Party）や後の保守党が多くの議席を獲得してきた。とりわけ、油田のあるアルバータ州では石油産業が政治経済に対して強い影響力を持っており、保守系の政党が支持されてきた。また西部地域では英語系（アングロフォン）が多く、フランス語系（フランコフォン）の支持を集める自由党は敬遠され

る傾向にある。

表2 地域ごとの獲得議席（2021年選挙）

地域 政党	東部				中央		西部				準州	合計
	NL	PE	NS	NB	QC	ON	MB	SK	AB	BC	3準州	
自由党	6	4	8	6	35	78	4	—	2	15	2	160
保守党	—	—	3	4	10	37	7	14	30	13	—	119
新民主党	1	—	—	—	1	5	3	—	2	13	1	25
ケベック連合	—	—	—	—	32	—	—	—	—	—	—	32
緑の党	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	2
計	7	4	11	10	78	121	14	14	34	42	3	338

出典：Elections Canadaより筆者作成。

NL：ニューファンドランド・ラブラドール州 PE：プリンス・エドワード・アイランド州
 NS：ノヴァ・スコシア州 NB：ニュー・ブランズウィック州 QC：ケベック州 ON：オンタリオ州
 MB：マニトバ州 SK：サスカチュワン AB：アルバータ BC：ブリティッシュ・コロンビア
 準州：ヌナヴト準州・北西準州・ユーコン準州

表2の通り、自由党が得た議席をエリアごとに見ると、東部、中央、西部という3つの地域において、西部のサスカチュワン州を除くすべての州から議席を獲得している。カナダを代表する全国的な政党として、幅広く支持を集めるという構図自体は、“natural governing party”と称される自由党の伝統的な政治スタイルであり、今回も維持されたといっていいただろう⁶⁾。

しかしながら、160議席と過半数に届かなかったのは、大票田であるオン

6) カナダでは、自由党が長年にわたり政権を担当してきたことから、支配的な政党とされてきた。今回の選挙結果のように、自由党がオンタリオ州とケベック州で多くの議席を得て政権を獲得したことは、カナダで繰り返されてきたことである。Harold D. Clarke, Jason Reifler, Thomas J. Scotto, and Marianne C. Stewewart, 'It's Spring Again! Voting in the 2015 Federal Election,' in John H. Pammet, Christopher Dornan (eds.), *The Canadian Federal Election of 2015*, Dundurn Press, 2016, pp. 327- 356.

少数派内閣の常態化？

タリオ州とケベック州において、やや議席が伸び悩んだ点である。例えば、過半数を超える184議席を獲得して政権に就いた2015年の選挙では、自由党が中央カナダで得た議席は120議席であったが、今回2021年の選挙では、113議席となっており、当時と比べて7議席少ない。また、自由党が伝統的に強い支持基盤を持つ東部においても、2015年では全体で32議席を得ていたのに対し、2021年では24議席と、かなり減少している。こうして各地域での微減がトータルでの議席減少につながり、結果として少数派内閣へと結びついたのである。

一方、野党の保守党は西部地域に強い支持基盤を有する政党であり、今回の選挙でも同様の傾向が見られた。サスカチュワン州で議席を獲得することができなかった自由党とは異なり、保守党は西部全ての州から議席を獲得している。保守党にとっての課題は、やはり中央カナダ、とりわけオンタリオ州での獲得議席を増加させることであるが、中道的な有権者が多いとされるオンタリオ州では、自由党を上回ることが難しい状況となっている。また、大票田の1つであるケベック州では、自由党とケベック連合が多くの議席を分け合っており、どちらかといえば英語話者であるアングロフォン寄りの政党である保守党が割って入る余地は少ない。

次に新民主党は、2011年の選挙で103議席を獲得して野党第1党となるなど、「オレンジの波⁷⁾」(orange wave)とも称された躍進を遂げたものの、その後に行われた2015年、2019年の選挙では、多くの議席を獲得することができずにいる。今回の選挙でも、全体でわずか25議席にとどまり、ケベック連合に次ぐ野党第3党という結果であった。2011年の選挙で多くの議席を獲得した背景には、ケベック州での獲得議席が増加したという側面が大きい。こうした点では、保守党と同様に、新民主党に関しても、ケベック州での動向が選挙結果にそのまま反映されるといえるだろう。

そこで、ケベック連合について見ると、ケベック州のみで32議席を獲得

7) オレンジは新民主党のシンボルカラーであることから、このように表現された。

し、同州で自由党が獲得した35議席に限りなく近い勢力となっている。前述のように、ケベック連合はカナダ連邦の下院議会選挙でもあるにもかかわらず、ケベック州にのみ候補者を擁立するという極めて特殊な地域主義政党である。しかしながら、かつて2011年の選挙でケベック連合が4議席しか獲得できなかった際には、逆に新民主党が同州で59議席を獲得するなど、選挙毎に有権者の支持政党が揺れ動く、いわゆる「スウィング・ヴォート」(swing vote)が顕著な場所でもある。1993年の選挙で初めて議席を獲得して以降、すでに30年近くが経過した現在もケベック連合はケベック州の利益を代表する政党として存在し続けているが、その支持基盤は必ずしも盤石なものとはいえない。

また、今回の選挙で興味深いのは、議席を獲得することはできなかったものの、前回選挙から得票数を伸ばした人民党 (People's Party of Canada: PPC) の存在であろう。同党は、かつて保守党に所属し、外務大臣としての経験をもつベルニエ (Maxime Bernier) が2018年に結成した右派政党である。コロナ対策に対しても、反ワクチン、反コロナ規制を強く訴えて選挙戦を戦い、得票率で4.9%を獲得した。前回の選挙では得票率1.6%であったことを考えれば、かなり支持を広めたといっていいただろう。カナダにおいても、政府によるコロナ対策に対する批判票が人民党に集まった結果である。

2.4 投票率の推移

最後に、コロナ禍の選挙であったということもあり、投票率についても言及したい。近年、カナダでも投票率は低下傾向にあり、2008年の選挙は58.8%、2011年の選挙は61.1%となっており、おおむね60%前後で推移してきた。しかし前々回の2015年の選挙では、投票率が68.3%と7割に近く、10ポイントほど上昇した。これは過去20年間でもっとも高い割合であった⁸⁾。一方、今回の2021年の選挙では、投票率は62.5%とかなり低い数値と

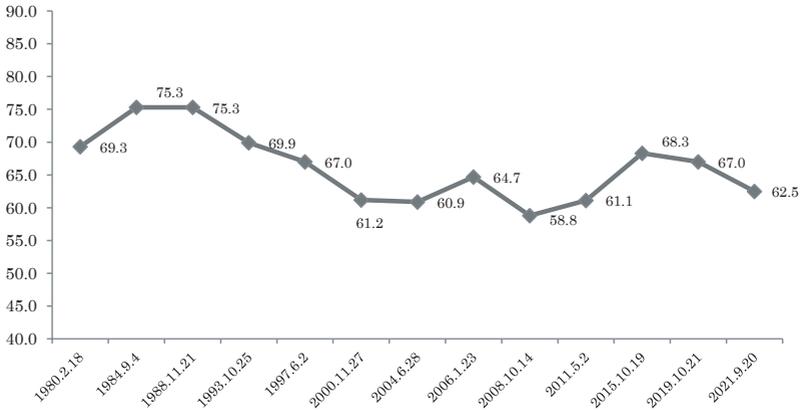
8) 2015年の選挙では、メッサモア (Barbara J. Messamore) が指摘するように、保守

少数派内閣の常態化？

なっている。2015年が68.3%、2019年が67.0%であったことを考えれば、投票率の下落幅が大きかったといえるだろう（図3参照）。

その理由として考えられるのは、やはりコロナ感染症拡大の第4波のさなかに行われた選挙という点が挙げられる。メディアによる報道でも、投票所における感染対策の影響から、入場者に制限をかけたため、とくに都市部の投票所で並ぶ人が続出した。こうした状況から、感染を回避しようとする心理が働き、投票そのものを回避した可能性も考えられる。実際、今回の選挙では、約100万人の有権者が郵便投票で投票し、さらに580万人が4日間の事前投票に参加しており、これは2019年の選挙と比較して18.5%の増加になる⁹⁾。しかし結果として低い投票率が、自由党にとって追い風とはならなかった点は、まさにトルドーにとって大きな誤算となったであろう。

図3 投票率の推移（1980年以降）



出典：Elections Canadaより筆者作成。

党から自由党への政権交代がテーマの1つとなっていたため、高い投票率に結びついたと考えられる。Barbara J. Messamore, “Justin Trudeau and Canada’s 2015 Election,” *The Round Table*, vol. 105, no. 1, pp. 81-84.

9) Cameron French, ‘Record number of mail-in ballots means final election results could take a while,’ in *CTV News*, September 20, 2021.

3 2021年選挙における各政党の動向

では次に、2021年選挙における各党の動向を確認していきたい。まず、前回2019年の選挙で少数派内閣となったトルドー自由党は、過半数を獲得して安定した政権運営をすることが、今回の選挙の主な目的であった点はずでに指摘した通りである。自由党が掲げた政策として、景気対策としては、今後3年間でカナダの国内総生産（GDP）の3～4%に当たる1000億カナダドル（約8兆8000億円）をコロナで後退した景気刺激策などに充てる方針を表明した。

また、コロナ対策としては、公務員へのワクチン接種の義務化、ワクチン・パスポートシステムの構築のための財政支援などを訴えた。さらに、飛行機や鉄道で旅行する際にはワクチン接種の義務化を求めるなど、選挙戦においてもコロナ対策に強いメッセージを発信してきた。解散を表明した2021年8月15日の段階でコロナウイルスの1回目ワクチン接種の割合は、カナダ国内で7割（72.3%）を超えており、同時期のアメリカが6割（60.5%）であったことと比較すれば、その実績をアピールするに足る状況ではあった¹⁰⁾。

しかしながら、コロナ対策で一定の成果を得ながらも、結果的に選挙で多くの有権者の支持を得られなかった理由は、まさに感染拡大の第4波のなかで実施された選挙そのものであった。とりわけ、選挙における感染症対策のために膨らんだ選挙費用に対して批判の目が向けられることとなった。選挙の管轄官庁であるElections Canadaによる試算によれば、5億2000万カナダドルかかった2019年の選挙と比べて、2021年の選挙では、1億1000万カナダドルほど多くの費用が必要となったという¹¹⁾。

10) Our World in Data より。

<https://ourworldindata.org/covid-vaccinations?country=OWID_WRL>

11) Stephen Maher, 'A \$600 million federal election later, we're back to where we started,' in *Maclean's*, September 21, 2021.

少数派内閣の常態化？

その理由としては、郵便投票のコスト、投票所で必要となった使い捨ての鉛筆やマスク、消毒液を供給することなど、通常の選挙以上に費用が発生したことが原因である¹²⁾。コロナ禍での選挙や、コストのかかる選挙ということもあり、当時のSNSでは「無駄遣い」(waste of money)というワードが検索トレンドとして浮上したほどである¹³⁾。結果として、トルドーが目指した過半数を獲得することができなかつたとすれば、コロナ禍での選挙というリスクを冒した賭けは、成功したとはいいいがたい。

一方、コロナ対策に関して、保守党のオトゥール (Erin O'Toole) 党首は、同党の候補者にワクチン接種を義務付けず、未接種者が何人いるかも明言しなかった。オトゥールは、ワクチン接種は個人の判断であるという立場を取り続けていたが、ワクチン接種率が7割を超えていたカナダでは、ワクチン接種に消極的な姿勢が議席増には結びつかなかった理由の1つでもあるだろう。

また、保守党が119議席にとどまり、前回から2議席の減少となった背景には、党首のオトゥールによる中道寄りの政策スタンスが保守派に受け入れられなかった点も指摘されている。右派の有権者から「中道寄り」とみなされた争点の1つは、カナダにける銃規制問題である。

2020年4月、カナダ東部のノヴァ・スコシア州で警察官に偽装した男が銃を乱射し、女性警察官を含む18人が死亡するという悲惨な事件が起きた。トルドーはこの事件後すぐに、殺傷能力の高い銃器約1500種について、販売や使用などを禁止すると発表し、即時発効した。カナダ国内でも、この銃乱射事件をきっかけとして銃規制強化を求める機運が高まっていた中での迅速な対応であった¹⁴⁾。

12) 'Waste of money': Canadians lament C\$612 million election that changed little

13) Rod Nickel, 'Waste of money: Canadians Lament C\$612 million election that changed little,' in *Reuters*, September 22, 2021.

14) カナダでは銃の所持は免許による許可制となっている。トルドーは今回の規制に際し、規制対象となる銃器を既に所有している人々に対しては、2年以内に廃棄するよう求めた。

一方、保守党のオトゥールはトルドーによる銃規制について、過度な規制はハンターや獣害対策のために銃を保持する農業従事者たちにとって不利となるため、当初は慎重な姿勢を保っていた。これは厳しい銃規制に対するカナダ国内における保守派の反発を意図したスタンスでもあったが、選挙戦がスタートしていた9月5日には、銃規制を求める国内世論の高まりもあり、オトゥールはトルドーによる新たな銃規制に賛同せざるを得なかった。こうした姿勢が、結果的には「中道寄り」とみなされ、強い保守層からの離脱を生んだと考えられている¹⁵⁾。

また、トルドー自由党が熱心に取り組んできた環境問題、とりわけ炭素税についてもオトゥールは保守党の綱領の中で取り上げており、炭素税という表現は使わなかったものの、おおむね賛同するという姿勢を取った。具体的には、温室効果ガスの排出量に応じて、一定の税金を納めるというものであり、仕組みとしては炭素税そのものであった。長年、保守党は自由党の炭素税を批判してきており、その点では大きな政策の路線変更であったことは間違いない¹⁶⁾。

こうして、保守党党首のオトゥールは、中道派をアピールして穏健派を取り込もうとしましたが、カナダ国内で最も多くの人口を抱える大都市圏であり、中道派の有権者が多いとされる「グレーター・トロント」(Greater Toronto Area)での躍進には至らなかった¹⁷⁾。今回の選挙でも敗北したことにより、保守党は連邦選挙で自由党に3連敗となり、とりわけ大都市での失

15) Mike Le Couteur, 'O'Toole's election gamble: swinging Tories to the centre,' in *Global News*, September 19, 2021. オトゥールは選挙期間中、たびたび現在の保守党は「かつての保守党ではない」(We're not your dad's Conservative Party)と述べ、保守党のイメージ刷新を狙ったが、結果としては浸透せずに保守層の取り込みには失敗したといえる。

16) Kyle Bakx, 'How Conservatives came around to supporting a carbon tax: and whether it's here to stay,' in *CBC News*, August 31, 2021.

17) Canada election: Conservative O'Toole defiant after loss to Trudeau

少数派内閣の常態化？

速が顕著である。保守党が自由党に勝利して政権を獲得するためには、大都市圏で支持される必要があり、そのためには政策を右派から中道に変更せざるを得ない。しかしながら、それは同時に、固い保守層からの支持を失うことにも結びついため、常に「ジレンマ」に直面しているのが現状である。なお、2022年2月2日、保守党で党首に対する信任投票が行われた結果、オトゥールは保守党党首を解任されることが決まった¹⁸⁾。保守党の迷走は、今後も自由党にとって有利に作用するだろう。

今回の選挙でも野党第3党となった新民主党のシン（Jagmeet Singh）党首は、自由党よりも左派リベラル寄りの有権者の支持を獲得するために、「超富裕層への課税」というメッセージを掲げて選挙戦を戦った。新民主党は前回から1議席だけ上回り、25議席であったが、自由党と政策的な距離が比較的に近いこともあって、自由党政権への閣外協力という形で影響力を行使するには十分な議席だといえるかもしれない¹⁹⁾。新民主党は、多様性を重視する政党を標榜していることもあって、候補者も女性が177名、先住民が29名、さらにはLGBTQ2S+が69名など、間違いなく最も多様な候補者を擁立している²⁰⁾。年齢でも若い世代が多く、26歳以下の候補者が45名であった。

そして新民主党の伝統的な「野党第3党」というポジションを今回も奪ったのが、ケベック連合である。前回選挙と増減なしで、32議席を獲得したが、前述の通り、すべての議席がケベック州で得たものである。ケベック連合が選挙において直面するのは、やはりケベックに関連する争点である。

今回、その1つとなったのが、ケベック州の法律である「公共の場での宗教的服飾の着用禁止」（Bill 21）である。ケベック州では、フランスの言語

18) Rachel Aiello and Sarah Turnbull, 'O'Toole resigns as Conservative leader, will stay on as MP,' in *CTV News*, February 2 2022.

19) Jessica Murphy, 'Canada election: Trudeau stays in power but Liberals fall short of majority,' in *BBC News*, September 21, 2021.

20) Solarina Ho, 'NDP may hold the balance of power in Parliament,' in *CTV News*, September 21, 2021.

や習慣を維持し続けることが極めて重要となるが、Bill21は、公共の場におけるスカーフやターバンの着用を禁止する内容である。つまり、宗教的な多様性を認めないことを州として公式的に定めているわけだが、こうした厳しい姿勢は、人権侵害や人種差別として捉えられるものであり、ケベックにおける「独特な社会」(distinct society)と人権問題とが常に拮抗するテーマでもある。かりにケベック連合がケベック州以外で候補者を擁立すれば、こうした主張を掲げる以上、議席獲得の可能性は極めて低いが、ケベック州における独自性により、一定の議席を獲得し、さらには野党第3党という存在となり得るのである。かつて、ケベック州では自由党が圧倒的に多くの議席を獲得し、結果として過半数を超えて安定した政権を維持する時代が続いていたが、ケベック連合の存在が、それを阻んでいるともいえる。

さて最後に、今回の選挙で注目されたのは、人民党の存在である。人民党は、新型コロナウイルスの対策に関して、一貫して反ワクチン、反ロックダウンという主張を続けてきたが、それが固い保守層の取り込みに奏功したといえるだろう。議席獲得はならなかったが、得票率では4.9%となり、2議席を獲得した緑の党(得票率2.3%)を上回っている。選挙期間中、感染者が増加すると同時に支持率も向上していったが、保守層だけではなく、コロナ対策に批判的な有権者を取り込むことに成功した結果である。保守党が議席を減少させた背景には、保守党の中道路線への批判に対して、人民党がその受け皿となったといえる。

4 おわりに

ブリティッシュ・コロンビア大学のタッパー(Allan Tupper)は、今回の2021年選挙結果を受けて、基本的な政治的な価値観や投票行動のパターンが変化しない限り、今後も同様の選挙結果が継続する可能性が高いと指摘し

少数派内閣の常態化？

ている²¹⁾。すなわち、リベラルな自由党と新民民主党、保守層を代表する保守党、そしてケベック州の利益のみを代表するケベック連合という主要な4政党が競い合うという政党政治のスタイルである。こうした政党勢力の構図は1993年の選挙において出現したものであり、その後、30年にわたって継続しているのである²²⁾。

こうした複数の政党間競合が定着した結果の1つとして、1993年の選挙以後、与党が議席率で6割を超えたことはなく、おおむね4割から5割程度にとどまるようになっており、かつて2006年の選挙で保守党が勝利した選挙では、議席占有率はわずかに40.3%（308議席中124議席）にすぎなかった。つまり、主要な4政党が互いに議席を分け合っている状況が常態化するようになってから、いずれの政党も過半数を獲得して安定した政権運営を行うことが極めて困難となっている。こうした傾向が、少数派内閣を生み出すメカニズムとなっており、タッパーが指摘するように、政党と有権者とを結びつける根本的な部分で大きな変化が生じない限り、今後も継続する可能性が高いと言えるだろう。

ここで、政党と有権者との結びつきという観点からも、若干の言及を加えてみたい。カナダの政党や投票行動を分析してきたルデューク（Lawrence LeDuc）は、カナダでは、つねに選挙における大規模な変化が生じやすいと指摘する²³⁾。したがって、1993年選挙以降に定着しつつあると考えられる政党間競合についても、ルデュークの見解に従えば、長期的に定着するような

21) Ian Austen, '4 Takeaways from the Canadian Election,' in *The New York Times*, September 21, 2021.

22) 1993年以降のカナダにおける政党や政党システムについては、次を参照。木暮健太郎「カナダにおける政党システム変化の考察—1990年代以降の事例から」『杏林社会科学研究』第34巻第4号、11-28頁、2019年。

23) Lawrence LeDuc, 'Canada: The Politics of Stable Dealignment,' in Russell J. Dalton, Scott C. Flanagan, and Paul A. Beck (eds.), *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?*, pp. 402-424.

傾向ではないということになる。ルデュークは、カナダにおいて投票行動に影響を及ぼすのは、選挙における争点や、政党あるいは政党のリーダーに対するイメージといった「短期的な影響力」(short-term forces)であるため、選挙毎の変化が大きくなるのである²⁴⁾。この観点に立てば、1993年以降に出現した政党間競争も永続的ではなく、急激な変化を伴う可能性があるということになる。

一方、ビッカートン (James Bickerton) やギャニオン (Alan-G. Gagnon) らの研究グループは、有権者の政党支持に関する流動性は高いと認めながらも、地域や言語といったエスノカルチュラルな争点次元は、カナダの投票行動を分析するうえで重要であるとしている²⁵⁾。ヤング (Lisa Young) やアーチャー (Keith Archer) らの研究者たちもまた、1993年以降、カナダの政党システムが地域主義 (regionalism) 的な分断によって特徴づけられており、長期的な傾向となる可能性を指摘している。カナダにおける著名な政治学者であるカーティ (Kenneth. R. Carty) もまた、1993年選挙以後、カナダは新たな政党システムのパターンを示しており、それは主に、地域主義によって特徴づけられ、地域的な利益と政党とが結びついていると述べる。

こうした政党と有権者との結びつきをめぐる議論だけではなく、今後は、常態化しつつあると考えられる少数派内閣が、カナダ政治にどのような影響を与えるのかは大きな政治的なテーマとなり得るだろう。はたして、ヨーロッパで見られるような連立政権が生まれる可能性があるのか、それとも英国に代表される、いわゆるウェストミンスター型の政治スタイルを維持し続けようとするのか。2021年から4年後に予定されている選挙結果も含め、幅広い考察を行う必要があるだろう。

24) Ibid., p. 408.

25) James Bickerton, Alan-G. Gagnon, and Patrick J. Smith (eds.), *Ties That Bind: Parties and Voters in Canada*, Oxford University Press, 1999.